

1. 大規模な農業、自然環境に合わせた農業

(1) 資料Ⅰから、アメリカ合衆国の農業の特色を読み取ろう。

(例) 日本に比べ1人あたりの耕地面積が広く、大型の機械や設備を使った農業を行い、多くの穀物を生産している。

(2) 資料Ⅱや教科書の本文を参考にして、アメリカ合衆国の農業の地域ごとの特色を下の表にまとめてみよう。

地 域	主な作物・農業
西経100度より東側	とうもろこし、大豆
西経100度より西側	放牧
カリフォルニア州	地中海式農業
五大湖周辺	酪農
南 部	綿花、大豆、とうもろこし

(3) 地域の気候や土壌などの自然環境に合わせた農業を何といいますか。

適地適作

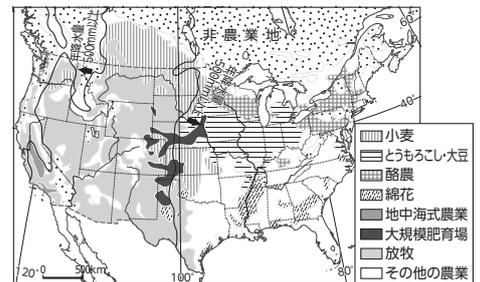
(4) 資料Ⅲのように、肥育場の周りに穀物を栽培する農地があるのはなぜだろうか。

(例) 肉牛の飼育には多くの穀物が餌として必要になるため、肥育場と農場が隣接している方が効率が良いから。

資料Ⅰ アメリカ合衆国と日本の農業の比較

	アメリカ合衆国	日本
1人あたり*の耕地面積 (ha)	71.3ha 	1.7ha 
1人あたり*の穀物収量 (t) <small>*農林水産業従事者</small>	195.7t 	4.8t 

資料Ⅱ アメリカ合衆国の農業地域



資料Ⅲ



2. 世界の食料庫とそれを維持する巨大企業

(1) 農業に関連することを専門的に扱う産業を何といいますか。

アグリビジネス

(2) (1)の産業を行う企業の仕事や役割を挙げてみよう。

(例) 気象や作付けの情報提供、農作物の種子の開発、農産物の流通や販売 など

本時のまとめ

- ◆ アメリカ合衆国が農産物を大量に輸出できる理由について、「広大な土地」と「適地適作」の語句を使って説明しよう。

(例) 広大な土地を生かして、自然環境に合わせた適地適作の農業を行うことで、大規模な機械や施設を用いて特定の作物を大量に生産しているため。